

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区玉川 3-34-2 リオ・ヴェルデ 2 階
園名	小学館アカデミーふたこたまがわ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と色

<テーマの設定理由>

窓からさす光に手を伸ばして触ろうとして、手を出したり引っ込めたりしている様子が多く見られた。
又、室内での自由遊び中にも日が差し込む場所でのんびりとしてくつろいでいる子どもや目を細め戸外を
みている子どもの様子を発見し、子どもと観察や発見することで子どものなぜだろうという思いを汲み取
り、楽しめる声かけや活動を考えることにした。
光の活動の中でわかりやすくするために色を取り入れることで子どもが色にも興味をもつようになったた
め、色についても興味を広げられるようかかわりを行う事にした。

2. 活動スケジュール

日々の遊びを中心に夏までを光、それ以降を色に移行し長期的に活動を行う。

1 歳児 12 名 2 歳児 10 名

5 月から 9 月 光 10 月から 2 月 色

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

記録用スマートフォン 段ボールハウス 天蓋

素材を自由に選べる環境設定 戸外での色遊び用の箱やカラーゴム 手洗い用せっけんポンプ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

窓付きの段ボールハウスを用意し、光にカラーセロファンで色を付け差し込む日差しをわかりやすくし、色
越しに見える外の様子に興味を持てるように準備をした。
また、室内では天蓋を付けることで直接あたる強い光からふんわりとした暖かな光と子どもがのんびりとく
つろげるスペースの準備をし、光を感じられる環境設定を遊びの中で子どもが発見できるようにした。

夏の時期は、更に光を感じられる遊びの工夫をした。水遊び中、水に差し込む光がわかりやすいのではと考え準備した。ビニールに水を入れ水越しに光を見たり、床にうつる光を楽しんだり、色水をタライにいれ、活動の準備をしていると、子どもたちが水の中に手を入れ、その手を引き上げ手の色が変わることを観察する様子が見られた。また、色への興味を感じられたため、色の一致や混色が楽しめる活動へと展開できる準備も行った。

制作面での色に触れる事だけではなく自然の中からも色を発見すること、興味によって発展した活動につながった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【光】

段ボールハウスではカラーセロファンの色が床につく事や、カラーセロファン越しに見る外の景色や友達の顔に映る色の違いを見比べながら「あれ？」と言う事や、床にうつる色を不思議そうに指差し保育者に「見つけたよ」というように訴える姿があった。

戸外活動中暗い部分と明るい部分をじっと見て、日陰を不思議そうに見て触れる事や周囲を見回すなど外での発見をしている子どもがいた。又、日陰と日向との境目を線に見立て飛び越えるなど子どもなりに遊びを考えていた。「触ってみる」と声をかけることで地面を触り、何かを感じ取っている様子が見られた。繰り返し日陰と日向をさわり満足げな表情が見られた。



【光→色】

水遊び期間中も光を感じられる活動ができないか、保育者同士で話し合い、袋に水を入れ、袋越しに周りを見たらいつもと違う明るさで見ることが出来るのではないかと考え、実践した。しかし、水のままだと子どもの興味があまり湧かない事から色水に変えたところ、色水が入った袋で遊ぶようになった。「赤くなった」「葉っぱは何色」と見えている色をいうようになった。子どもの興味が色にも向けられたため色を意識した活動へと発展させた。

せっけんポンプを使用し、色を自由に混ぜて変わる活動を行った。その経験から、絵具遊びでも子どもたちの好きな色を混ぜ、何色になるのかを考えられるような声かけをし、ワクワク感を持たせながら行った。実際にどうなったか結果を見ることで、「ピンクになった」「これは何色」と他の色の組み合わせはどうかなのか考える姿も見られた。

絵具遊びの活動後、おむずびころりの絵本を読んでいると子どもたちから「ねずみをつくりたい」という声があり、ねずみ作りの活動を実施した。その際、「ねずみいろってどうやって作るのかな。」と声かけをしながら、子どもたち自身でねずみの色を作成した。「これだと紫色だよ」など出来上がった色を楽しみながら活動が出来ていた。

あえて、黒を使用せずに子どもたちが作った色を混ぜることで出来上がりの期待感もましょかった。



【色】

お散歩のとき、手を繋ぐ相手によっては歩きたくない場面も多くなった。カラーゴムを使用し、ゲームのようにすることで、色を楽しみながらも気持ちを切り替え、同じ色のお友だちを探し、「手をつなごう」と手を繋いで歩くことを楽しめるようになった。

また、カラーゴムを使用することで散歩中、「あったよ、これ黄色」と色に興味を示し、自然の中から色を探すこと楽しんでいる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの興味を持ったことに焦点を当てて、保育や環境の準備をすることで子どもたちの新たな様子や発見に気づくようになった。差し込む光に手を伸ばしている様子から、日向と日陰の色の違いの気づきがあり、そこから保育者の声がけで触って確かめる活動に繋がった事は活動の足場がけになりよかった。色への興味の変化により更に活動が広がったことが保育者の意識した声がけに繋がった。

1歳児は言葉を吸収する時期のためわかりやすく伝え、一致させることが大事だが、そこに焦点を置きすぎてしまい、色を言えるようになる事で色の理解をしていると思ってしまった場面もあった。色を言えるようにすることが目的ではない事を再確認しながら、様々な経験が出来るように工夫をした。

活動の切れ目に振り返ることで、保育者が気づかなかった子どもの様子に気づき、担任間の考えや活動のねらいも共有でき、次への活動の展開を考えることが出来た。

2歳児のいやいややこだわりに対しても、子どもたちの興味がある「色」をゲーム感覚で取り入れることで楽しみながら気持ちの切り替えへと導くことが出来た。保育者もこうしなければいけない、こうあるはずと等の固定概念から、子どもたち一人ひとりの様子を観察し、それぞれにあった柔軟な保育が出来るようになってきた。

また、すぐに答えを伝えてしまわずに「なんでだろうね」と子どもたちと一緒に考える事、年齢が低いと結果を求めず、様々な経験・体験の積み重ねがその先の成長につながる事を改めて感じることが出来る活動になった。先走って言うてしまわずに子どもたちの様子を見て、保育者が関わる重要性を感じられた。

さらに1年間通してきたことで活動の連続性の大切さに気付き、その中で課題も発見できたため引き続き活動を行っていききたい。